



①片庭市長を表敬訪問した立浪部屋の明生関<sup>めいせい</sup>、力真関<sup>りきしん</sup>（中央<sup>ちゅう</sup>）、立浪親方<sup>ちやう</sup> ②発表になった5月場所の番付表で、自分の名前を指さす明生関<sup>めいせい</sup>と力真関<sup>りきしん</sup> ③毎年市が主催する親子料理教室「どすこいクッキング」の様子。立浪部屋の力士を講師に迎え、栄養たっぷりの「特製ちゃんこ鍋」をつくる人気の企画。 ④陽光台にある立浪部屋。稽古の様子は自由に見学できる。



## 地元の相撲部屋として 茨城から相撲を盛り上げたい。

幕内目指し「頑張る」

5月1日には、力真関、明生関の二人が立浪親方と共に伊奈庁舎を訪れ、片庭市長を表敬。今後の目標を聞かれ、力真関は「幕内になれるように頑張る」、明生関は「一生懸命頑張る」とそれぞれ決意を語った。

片庭市長は「若乃花、貴乃花の『若貴』のように2人で競い合い『力明』時代をつくってほしい」と激励した。

「何が起ころかわからない」  
相撲の魅力

力真関、明生関に「相撲」の魅力聞いた。力真関は少し考えた後、「何が起ころかわから

ないところ。強い者が上に行くシンプルさが魅力だが、横綱も星を落とすこともあるし、番狂わせがある」と話す。

明生関は「引き分けがなく、勝ち負けが分かりやすい。一つの勝負で人をワクワクさせたり悲しませたり。横綱が一番強いわけではなく、絶対がないところ」と言葉をつないだ。

「自分を超える力士育てたい」

日々の稽古を、厳しくも温かく見守る、立浪部屋・師匠の7代目立浪親方。「せっかくなので世界に入ったのだから、後悔しないよう最高の番付を目指して欲しい」と言葉に熱を込める。

地元根差した相撲部屋・立浪部屋として、今後の抱負を尋ねた。「地元の人応援が一番ありがたい。いずれは自分の番付（小結）を超える力士を育てたい。かつての立浪部屋のように、強い力士が大勢いる部屋に」と今後の飛躍を誓った。



立浪部屋 立浪 耐治 師匠

元小結・旭豊。愛知県出身。大島部屋所属で最高位は小結。昭和62年初土俵、平成7年春場所入幕。引退後、平成11年3月から7代目立浪を襲名し、名門・立浪部屋を継承した。

稽古を終え、通りかかった子どもたちの声援に手を振る力士の姿が、ほほえましかった。